

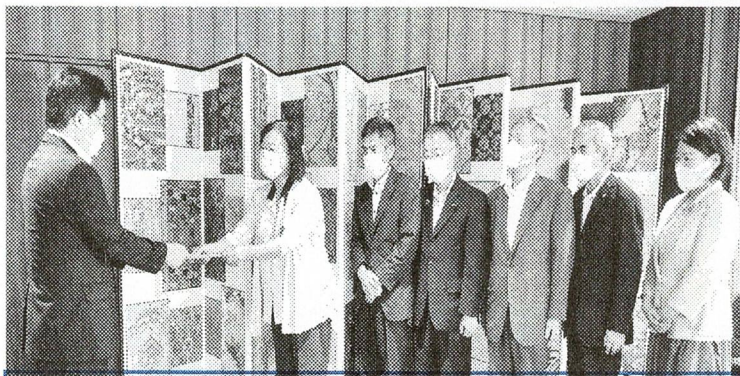
コロナ感染急拡大で
市長へ緊急申し入れ実施

臨時発熱外来診療所の再開等を要望

民報
おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢字久田 62
TEL 24-2021
FAX 24-2049



8月9日、倉成市長にコロナ対策の緊急申し入れを行う(左から二人目が千田県議、右に今野市議、千葉市議、菅原市議、瀬川市議、佐藤市議)

今回の申し入れは、①市と市民が一体となった感染抑止の取り組み強化、②臨時発熱外来診療所の再開、③ワクチン接種の早期・確実な促進、④PCR等検査体制の強化、⑤後遺症の状況を把握し医療と相談の体制確立の5項目です。

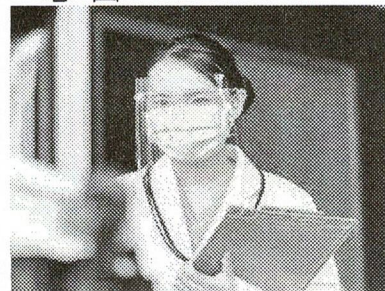
日100人前後の現在、発熱等体調不良で診察を受けようにも、病院やかかりつけ医等に断られたり長時間待たされる状況が続いています。このため議員団は、感染急拡大で検査・治療が滞ることのないよう、土日等の限定も含めた臨時発熱外来診療所の再開を求めました。

現状では効率的でない

これに対し、担当部長は、「診療・検査は、患者を広く受け入れていてる所に集中する傾向がみられる。発熱外来はすでに個別医療機関で行っていることから、各施設の医師や看護師が臨時発熱外来診療所で別に対応することとは効率的でない」と述べました。

スムーズに受けられる検査体制が必要

議員団からは、市民にとつ



て感染疑いや体調不良の不
安を感じた時、
早期に検査を
受けて安心で
きることが重
要であり、医師
会の協力を得

ながら、検査をスムーズに受けられる体制を整えてほしい、と訴えました。
倉成市長も、「どこに行けば診察が受けられるか等のアプリや情報が市民に届けられないか、検討したい」と述べました。

検査試薬・資材等の確保は十分か

議員団は、検査が滞るのはPCR検査等の資材不足の可能性があり、検査資材が不足していないかどうか調査の上、充分確保するように求めました。

担当部長は「市内の公立病院では、検査試薬が入りづらい傾向ではあるが、検査が行えなくなることはない。抗原検査キットは国がメーカーから買い取り、順次配布しているの、不足感解消されると思う」と述べました。

映画～伊藤千代子の生涯～

上映会のご案内



戦争と無権利の時代、反戦と主権在民を掲げたたかに倒れた若き女性の真実の物語。この機会にぜひ、ご鑑賞ください！

《上映スケジュール》

◎8月27日(土)

水沢・Zホール

◎8月28日(日)

北上・日本現代詩歌文学館

◎上映時間 ①10時～
②14時～

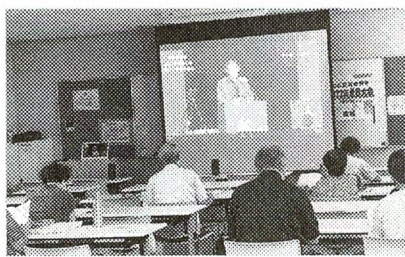
○前売券 1000円(大学生以下無料)

○お問合せは 24-2021(日本共産党奥州市委員会まで)

主催:「伊藤千代子の生涯」を観る胆江・北上の会

原水爆禁止世界大会

水沢リモート集会



「被爆者」ともに、核兵器のない平和で公正な世界を」をメインスローガンに掲げた「被爆77年原水爆禁止2022年世界大会」の水沢地区リモート集会

が8月6日、水沢の南地区センターを会場として開かれ23人の市民が参加しました。
地元会場の主催者である水沢地区原水協(原水爆禁止水沢地区協議会)の小原隆穂会長が挨拶、「今年

になった。岩手県からは、15名の代表が広島会場に参加するとともに、県内20会場でリモート集会が開催されていることを紹介。そのうえで、「今年の大会は、3つの意味で重要であり、①ロシアのウクライナ侵略のもとで、プーチン大統領が核兵器の使用を示唆していること。②そのもとで核兵器禁止条約の参加国が6カ国に拡大していること、③核不拡散条約(NPT)再検討会議が開かれていて、日本政府は唯一の被爆国の政府としての役割を全く発揮していない」と批判しました。参加者からは「若い人たちが被爆者の声や当時のことを聞き、様々な形で世界に向けて核の恐ろしさを訴えていることに心を打たれました」などの感想が寄せられました。